

平成29年度 再評価  
自己点検評価書  
[日本高等教育評価機構]

平成29(2017)年6月

昭和大学

目 次

I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等	1
II. 沿革と現況	4
III. 基準項目ごとの自己評価	8
基準 2 学修と教授	
2-8 教員の配置・職能開発等	8
V. エビデンス集一覧	11
エビデンス集（データ編）一覧	11
エビデンス集（資料編）一覧	12

## I. 建学の精神・大学の基本理念、使命・目的、大学の個性・特色等

### 1. 建学の精神・基本理念

「社会に貢献する優れた医療人の育成」が本学の建学の理念である。

昭和3（1928）年、学祖上條秀介博士は、学問・研究に偏重し、実際の医療と遊離していた当時の医学教育に疑問を抱き、人々の求めに本当に役立つ、人間性豊かで優れた臨床医を養成することを世に訴え、本学医学部の前身となる昭和医学専門学校を創立した。上條博士が掲げた建学の精神は「至誠一貫」である。常に相手の立場にたってまごころを尽くすというその精神は、現在に至るまで脈々と受け継がれている。

### 2. 使命・目的

価値観が多様化し、社会構造の変化が地球規模で進む現代では、人々の医療に対する要求は多様かつ高度になり、医療のあり方もそれぞれの専門領域で深化するとともに分化してきた。その一方で、多種の医療専門職が互いに連携して克服すべき課題も生じ、専門領域の新たな統合も模索されてきている。

このような時代の要請に対して、本学は医系総合大学という特徴を活かして、専門領域の深化と連携をはかり、知の新たな創造を目指すにふさわしく、またその達成が可能であると自ら信ずるものである。建学以来受け継がれてきた「至誠一貫」の精神をこれまでも増して体現し、真心を持って国民一人ひとりの健康を守るために孜孜として尽力することが本学の使命・目的である。

### 3. 個性・特色等

#### ① 「チーム医療教育」

多様化し、高度化する今日の医療現場においては、各分野のスペシャリストが互いの領域を超えて力を合わせる「チーム医療」が欠かせない。本学では、医系総合大学のメリットを活かして、全学部・全学年にわたる連携システムで、チーム医療を体系的に学べるカリキュラムを編成し、実践している。具体的には、学部連携 PBL (problem-based learning) チュートリアル（全学部1年次、医・歯・薬学部3年次、保健医療学部2年次、医・歯・薬学部4年次、保健医療学部3年次）、並びに学部連携病棟実習（医・歯・薬学部5年次、保健医療学部看護学科・作業療法学科4年次、理学療法学科3年次）を必修、学部連携アドバンス病院実習及び学部連携地域医療実習（医・歯・薬学部6年次、保健医療学部4年次）を選択で実施している。

#### ② 「初年次全寮制教育」

昭和40（1965）年に始めた山梨県富士吉田キャンパスでの初年次全寮制教育は、本学の教育システムの基盤となるものであり、学生寮は医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部混合の部屋割りとし、1年間の寮生活において他人を思いやる協調性、人の痛みのわかる人間性を培っている。このシステムは、将来医療人として欠くことのできない問題解決能力の育成と、全人的医療の実践に大きな成果を収めている。

#### ③ 「指導担任制度」

本学では、学生が充実した学生生活を送り勉学や諸活動に専念できるよう支援・指導す

るために設けられた指導担任制度があり半世紀を超える歴史を有している。これは指導担当教員 1 名が数名の学生を受持ち、勉学や学生生活等の相談にのり、必要に応じて保護者とも面談をしている。1 年次の学部混成型指導担任制、医・歯・薬学部の 2 年次から 4 年次の学部横断の指導担任制度、5・6 年次の当該学部教育職員による指導担任の担当と学生の成長に合わせた柔軟な体制を構築し対応している。

また、学部横断指導担任制度の他に、専門教育に関する指導を担う修学支援制度を導入しており、二つの制度の相互補完により学生支援・学生指導がより効果を挙げている。

#### ④ 「クリニカルクラークシップ（少人数病院実習教育（CC：Clinical Clerkship）」

本学では、8 つの附属病院で各学部の臨床実習及び学部連携病棟実習を少人数グループのクリニカルクラークシップ（CC）で効果的に実施している。

医学部では、4 年次の 10 月から 5 年次の 11 月までの臨床実習を 29 診療科 43 週間（内科・外科の 15 診療科は 1 週間、その他の診療科は 2 週間）、4 つの大きな基幹型病院で行う。各診療科 1～2 名の学生による少人数臨床実習を行っており、これにより診療科での医療チームの一員として研修医を含めた屋根瓦教育が可能となっている。更に、5 年次 12 月から 6 年次 6 月までの 7 か月間は長期での CC を行っている。

歯学部では、5 年次の臨床実習を①一般歯科診療の自験を目指す 2 つのユニット（保存系と補綴系）と、②8～9 名で専門診療科をローテートする（成育・診断系、口腔外科系・全身管理と医療連携系）多数のユニット群に 2 分し、アウトカム基盤型の診療参加型臨床実習を行っている。

薬学部では、5 年次に病院実習を 12 週間、薬局実習を 11 週間実施している。病棟実習については、本学各附属病院で 1～2 名の学生が病棟に配置された臨床教員（病棟薬剤師）の指導のもと、入院患者を担当して薬学的管理を行う CC を行っている。

保健医療学部では、看護学科、理学療法学科、作業療法学科の各学科の病院実習を本学各附属病院において、臨床教員の指導のもと CC を行っている。

#### ⑤ 「各学部・各研究科の連携によるさまざまな領域の研究への取り組み」

各学部・各研究科が密に連携し、ライフサイエンスのさまざまな領域の研究に取り組んでいる。更に 8 つの附属病院で得られた臨床上の発見を、基礎的なアプローチでメカニズムを発見、逆に基礎的な分野で得られた発見を臨床で応用するなど、臨床系・基礎系が密接に連携した研究環境が整っている。

本学は附置研究施設として、腫瘍分子生物学研究所、臨床薬理研究所、発達障害医療研究所、スポーツ運動科学研究所の 4 つの研究所を有しており、研究の充実に寄与している。腫瘍分子生物学研究所では、文部科学省の「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」に採択され、平成 24（2012）年度より医・歯・薬学部関連教室と相互の連携を図りながら研究を行っている。また、発達障害医療研究所では、文部科学省の「共同利用・協同研究拠点」に承認され、平成 26（2014）年度より発達障害そのものの医学的研究はもとより、発達障害特有の社会性の障害に着目し、より広く人間の社会性に迫る文理融合型共同研究を展開している。

医・歯・薬・保健医療の 4 研究科共通の科目として、がん患者に対するチーム医療を学修する「4 大学院がんチーム医療」を東京慈恵会医科大学、星薬科大学、上智大学の大学院との連携で開講している。

平成 28 (2016) 年度には文部科学省の「私立大学研究ブランディング事業」に採択され、PDCA 型の学長統括体制のもと、生活習慣病における生体内レドックス（酸化還元反応）の機能を解明し、その成果を健康長寿のための医療に応用し、患者や医療従事者への波及を通じてレドックス医療の研究拠点としての大学ブランドを創成している。

⑥ 「多様な大学院教育のもとでの多彩な医療人の育成」

保健医療学研究科保健医療学専攻博士前期（修士）課程では、9 つの専門教育研究領域（1.基礎・臨床・統合医療領域、2.運動障害リハビリテーションと呼吸ケア領域、3.精神障害リハビリテーションとケア領域、4.地域・在宅ケア・マネジメントと医療施設ケア領域、5.医療マネジメント領域、6.診療放射線領域、7.臨床栄養学領域、8.臨床検査学領域、9.口腔保健学領域）で教育・研究者や実践の場でリーダーシップをとり、指導的役割を果たす高い専門性に基づく臨床研究ができる保健医療学領域の医療従事者の育成を目指す教育を本学附属病院を活用しながら行っている。また、専門性を高めた看護実践・教育研究等の開発的役割がとれる専門看護師（専門看護師教育課程：CNS(Certified Nurse Specialist)老年看護学分野、CNS 精神保健看護学分野、がん看護学分野）の育成を目指す教育を行っている。

保健医療学研究科保健医療学専攻博士後期（博士）課程では、4 つの専門教育研究領域（1.生体機能・形態解析領域、2.内部障害リハビリテーション領域、3.精神障害リハビリテーション領域、4.運動障害リハビリテーション領域）で各医療専門職の教育・研究者の育成を目指す教育を行っている。

## Ⅱ. 沿革と現況

### 1. 本学の沿革

昭和3(1928)年3月	財団法人昭和医学専門学校設置認可
5月	医学専門学校附属医院開院（現在の昭和大学病院）
昭和6(1931)年8月	附属産婆看護婦講習所設置認可
昭和21(1946)年4月	財団法人昭和医科大学設置認可（大学令による医科大学）
昭和26(1951)年2月	財団法人から学校法人に組織変更
7月	烏山病院開院
昭和27(1952)年2月	昭和医科大学医学科（専門課程）設置（学校教育法による）
昭和34(1959)年3月	大学院医学研究科（博士課程）設置認可
昭和39(1964)年3月	昭和大学に名称変更 薬学部薬学科設置認可 医学部附属高等看護学校設置認可
昭和40(1965)年4月	富士吉田校舎開設
昭和41(1966)年12月	薬学部生物薬学科設置認可
昭和44(1969)年3月	大学院薬学研究科（修士課程）設置認可
昭和47(1972)年12月	昭和大学附属烏山病院高等看護学校設置認可
昭和49(1974)年3月	大学院薬学研究科（博士課程）設置認可
昭和50(1975)年7月	昭和大学附属烏山病院高等看護学校第二看護学科設置認可 藤が丘病院開院
昭和51(1976)年9月	昭和大学附属烏山高等看護学校（専修学校に切替）
昭和52(1977)年1月	歯学部歯学科設置認可
6月	歯科病院開院
昭和53(1978)年11月	医学部附属看護専門学校設置認可（専修学校に切替）
昭和57(1982)年6月	豊洲病院開院
昭和58(1983)年3月	大学院歯学研究科（博士課程）設置認可
平成2(1990)年6月	藤が丘リハビリテーション病院開院
平成6(1994)年4月	昭和大学附属烏山看護専門学校と名称変更
平成8(1996)年3月	昭和大学附属秋田外科病院廃止
12月	昭和大学医療短期大学設置認可
平成9(1997)年1月	昭和大学腫瘍分子生物学研究所開設
12月	大学院薬学研究科設置認可 薬学専攻・医療薬学専攻 博士課程（前期・後期）
平成11(1999)年4月	昭和大学病院附属東病院開院

## 昭和大学

- 平成13(2001)年 2月 診療放射線専門学校設置認可  
4月 横浜市北部病院開院  
12月 昭和大学保健医療学部設置認可
- 平成17(2005)年 5月 昭和大学医療短期大学廃止
- 平成18(2006)年 4月 保健医療学部看護学科助産師学校指定  
4月 教養部を改組し富士吉田教育部設置  
4月 薬学部6年制教育開始に伴い薬学科、生物薬学科を薬学科に改組  
11月 豊洲クリニック開院  
11月 大学院保健医療学研究科（修士課程）設置認可
- 平成23(2011)年 3月 診療放射線専門学校廃止  
4月 大学院薬学研究科博士課程（前期）廃止  
5月 大学院薬学研究科博士課程（後期）募集停止  
6月 大学院薬学研究科博士課程（4年制課程）設置届出  
10月 大学院保健医療学研究科課程変更認可  
保健医療学専攻 博士課程（前期・後期）
- 平成24(2012)年 4月 助産学専攻科 助産師学校指定
- 平成26(2014)年 3月 豊洲病院廃止（江東豊洲病院へ診療体制移行）  
江東豊洲病院開院
- 平成26(2014)年 4月 臨床薬理研究所、発達障害医療研究所開設
- 平成27(2015)年 4月 スポーツ運動科学研究所開設
- 平成28(2016)年 4月 歯科病院内科クリニック開院

2. 本学の現況

・ 大学名

昭和大学

・ 所在地

旗の台キャンパス	東京都品川区旗の台 1-5-8
洗足キャンパス	東京都大田区北千束 2-1-1
横浜キャンパス	神奈川県横浜市緑区十日市場町 1865
富士吉田キャンパス	山梨県富士吉田市上吉田 4562

・ 学部構成

(昭和大学)

医学部	医学科
歯学部	歯学科
薬学部	薬学科
保健医療学部	看護学科
	理学療法学科
	作業療法学科

(昭和大学大学院)

医学研究科	生理系専攻 (博士課程)
	病理系専攻 (博士課程)
	社会医学系専攻 (博士課程)
	内科系専攻 (博士課程)
	外科系専攻 (博士課程)
歯学研究科	歯学専攻 (博士課程)
薬学研究科	薬学専攻 (博士課程)
保健医療学研究科	保健医療学専攻 (博士前期課程)
	保健医療学専攻 (博士後期課程)

・ 学生数、教員数、職員数

(学部・学生数)

医学部	医学科	711 人
歯学部	歯学科	597 人
薬学部	薬学科	1,205 人
保健医療学部	看護学科	430 人
	理学療法学科	146 人
	作業療法学科	81 人
合計		3,170 人

昭和大学

(大学院・学生数)

医学研究科	生理系	63 人
	病理系	70 人
	社会医学系	17 人
	内科系	76 人
	外科系	67 人
歯学研究科		102 人
薬学研究科		57 人
保健医療学研究科	(修士課程)	34 人
	(博士課程)	11 人
合計		497 人

(教員数 (学部等))

教授	161 人
准教授	164 人
講師	391 人
助教	1,068 人
合計	1,784 人

(職員数)

正職員	4,877 人
嘱託	0 人
パート (アルバイト含む)	173 人
派遣	0 人
合計	5,050 人

### Ⅲ. 基準項目ごとの自己評価

#### 2-8 教員の配置・職能開発等

##### 《2-8の視点》

##### 2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

##### 2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめとする教員の資質・能力向上への取り組み

##### 2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

##### (1) 2-8の自己判定

基準項目 2-8 を満たしている。

##### (2) 2-8の自己判定の理由（事実の説明及び自己評価）

##### 2-8-① 教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置

#### 【学部・研究科】

各学部は、大学設置基準に則して教授、准教授、講師、助教の専任教育職員を適正数確保している。研究科においては、大学院修了者を中心に専門能力の高い人材を確保し、助教、講師、准教授、教授を選定し、専門の学科及び実習の教育に当たっている。保健医療学部では教授数が適切でなかったため新規に採用して適切な数とした。

(表 2-8-① (エビデンス集 F-6 改変))

(学部)		教授	准教授	講師	助教	計
医学部	医学科	88	100	221	794	1,203
歯学部	歯学科	21	18	35	159	233
薬学部	薬学科	19	12	27	108	166
保健医療学部	看護学科	8	14	46	0	68
	理学療法学科	5	4	15	0	24
	作業療法学科	5	2	14	0	21
	小計	18	20	75	0	113
富士吉田教育部		8	6	13	1	28
合計		154	156	371	1,062	1,743

(大学院)		教授	准教授	講師	助教	計
医学研究科	※	88	100	221	676	1,085
歯学研究科	※	21	18	35	119	193
薬学研究科	※	19	12	27	101	159
保健医療学研究科	※	18	20	75	0	113
合計		146	150	358	896	1,550

(※ 学部の教員が研究科の教員を兼ねている)

## 2-8-② 教員の採用・昇任等、教員評価、研修、FD(Faculty Development)をはじめとする教員の資質・能力向上への取組み

### 【学部・研究科】

1. 任期制：教授・准教授は5年間、講師は4年間、助教は3年間の研究・教育実績を自己申告し、専門の委員会で評価項目について詳細に評価される。
2. FD (Faculty Development) の開催：教育推進室が中心となり、医・歯・薬・保健医療学部合同のワークショップとして、「昭和大学教育者のためのワークショップ」を行っている。また、各学部では学部の特化した内容のアドバンストワークショップを開催し、喫緊に必要な教育に関するプロダクトを作成し、ただちに導入して教育の改善に役立てている。これらワークショップには4学部の教育職員が参加している。これは、全学部の教育職員で討議することで、医系総合大学の教員としての能力開発を行うためである。

医学部では『臨床指導医講習会』を年2回ワークショップ形式で開催し、研修医に対する指導ばかりでなく、学生に対する指導に対しても学修するシステムとしている。

## 2-8-③ 教養教育実施のための体制の整備

### 【学部・研究科】

本学における教養教育は、主に入学初年次に山梨県富士吉田市に所在する「富士吉田教育部」において実施している。

専任教員28名により、教養教育と語学教育、サイエンス系教育等が行われるほか、専門課程の基礎教育、チーム医療の基盤教育については、全ての学部の教員も協働して授業をおこなっている。また、授業担当とは別に各学部から2名の専従兼任教員を配置して、初年次教育と学部教育の連携を図っている。

富士吉田教育部長を中心とし、教授会や教育委員会をはじめとする各種委員会、教育推進室を設置して組織運営にあたっている。特に教育委員会においては、教育部教育委員会、各学部教育委員会に相互の委員が出席しており、4年間、6年間の体系的教育の構築が図られる体制としている。教授会においても各学部から教育部教授会に担当教員が出席しており、教育案件、重要案件等の協議、検討がおこなわれ、その結果については各学部教授会に報告されて情報の共有が図られている。

### 【エビデンス・資料編】

- ・【資料 2-8-1】 シラバス
- ・【資料 2-8-2】 昭和大学教員の任期制に関する規程
- ・【資料 2-8-3】 昭和大学教員の任期制に関する実施細則

(3) 2-8 の改善・向上方策（将来計画）

**【学部】**

1. 新規教育職員の採用：医系総合大学の本学の教育理念、教育研究の目的やコンピテンシーを理解し、教育、医療、研究のバランスの取れた人材を採用するようにする。また、現在、昭和大学の特色ある臨床教育を担う教育職員として、臨床の現場に配置されている看護師・薬剤師等を臨床教育職員として発令し、全ての学部で必修の臨床実習時の学生教育担当としているが、更なる採用や昇進など教育環境の整備を積極的に進める。
2. ワークショップ、FD 講習会の充実：教員の資質・能力向上のために、各種の教育者ワークショップや FD 講演会を、積極的に企画し開催する。

**【研究科】**

1. FD 講習会への参加：学内 FD の一環の一つである学内ワークショップや病院ワークショップ、臨床指導医講習会、教育学会等への参加は引き続き推進し、資質の向上を図るとともに、教育カリキュラム担当部分に照らして、教員ごとの資質・能力の点検をおこなう。
2. 大学院担当教育職員の積極的採用：保健医療学研究科では、医療に関する複数の分野に関する専攻を開講している。これに伴い、本学所属の教育職員を積極的に保健医療学研究科担当教員として採用し、専門性高い大学院教育を推進する。

**V. エビデンス集一覧**

**エビデンス集（データ編）一覧**

コード	タイトル	備考
【表 F-1】	大学名・所在地等	
【表 F-2】	設置学部・学科・大学院研究科等／開設予定の学部・学科・大学院研究科等	
【表 F-3】	学部・研究科構成	
【表 F-4】	学部・学科の学生定員及び在籍学生数	
【表 F-5】	大学院研究科の学生定員及び在籍学生数	
【表 F-6】	全学の教員組織（学部等）	
	全学の教員組織（大学院等）	
【表 F-7】	附属校及び併設校、附属機関の概要	
【表 F-8】	外部評価の実施概要	

※該当しない項目がある場合は削除してください。

エビデンス集（資料編）一覧

基礎資料

コード	タイトル	備考
	該当する資料名及び該当ページ	
【資料 F-1】	寄附行為	
	・学校法人昭和大学寄附行為 ・学校法人昭和大学寄附行為施行細則	
【資料 F-2】	大学案内	
	・昭和大学パンフレット ・昭和大学大学院パンフレット	
【資料 F-3】	大学学則、大学院学則	
	・昭和大学学則 ・昭和大学大学院学則	
【資料 F-4】	学生募集要項、入学者選抜要綱	
	・昭和大学入学試験要項（平成 29 年度） ・平成 29 年度秋季・平成 30 年度春季 昭和大学大学院入学試験要項	
【資料 F-5】	学生便覧、履修要項	
	<a href="http://www.showa-u.ac.jp/about_us/disclosure/check-and-estimation.html">http://www.showa-u.ac.jp/about_us/disclosure/check-and-estimation.html</a>	※ホームページ
【資料 F-6】	事業計画書	
	・平成 29 年度事業計画	
【資料 F-7】	事業報告書	
	・平成 28 年度事業報告書	
【資料 F-8】	アクセスマップ、キャンパスマップなど	
	・交通案内一覧 ・キャンパス（旗の台、洗足、横浜、富士吉田） ・附属施設（昭和大学病院・附属東病院、藤が丘病院、 藤が丘リハビリテーション病院、江東豊洲病院、横浜市北部病院、 豊洲クリニック、烏山病院）	
【資料 F-9】	法人及び大学の規程一覧（規程集目次など）	
	・昭和大学規程集 目次	
【資料 F-10】	理事、監事、評議員などの名簿（外部役員・内部役員）及び理事会、評議員会の前年度開催状況（開催日、開催回数、出席状況など）がわかる資料	
	・学校法人昭和大学 役員・評議員名簿（平成 29 年 4 月 1 日現在） ・平成 28 年度理事会開催状況一覧 ・平成 28 年度評議員会開催状況一覧	
【資料 F-11】	自己点検評価書（再評価）の作成に関わる担当者一覧（基準項目ごとの責任者及び担当者がわかるもの）	
	不適・改善を要する点の資料作成担当一覧	

基準 2. 学修と教授

基準項目		備考
コード	該当する資料名及び該当ページ	
2-8. 教員の配置・職能開発等		
【資料 2-8-1】	シラバス	* ホームページ
【資料 2-8-2】	昭和大学教員の任期制に関する規程	
【資料 2-8-3】	昭和大学教員の任期制に関する実施細則	

※必要に応じて、記入欄を追加・削除すること。